

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-50C	17-074	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>The relationship between drinking alcohol and esophageal, gastric or colorectal cancer: A nationwide population-based cohort study of South Korea.</p> <p>飲酒と食道癌、胃癌、結腸直腸癌との関係：韓国における全住民対象のコホート研究</p>		
執筆者		
YJ Choi, DH Lee, KD Han, HS Kim, H Yoon, CM Shin, YS Park, N Kim		
掲載誌		
PLoS One.2017 Oct; 12(10): e0185778. doi:10.1371/journal.pone.0185778.eCollection 2017		
キーワード		PMID
アルコール、食道癌、胃癌、結腸直腸癌、韓国		28973012
要 旨		
<p>目的： 癌発症前のアルコール摂取パターン、特に少量の飲酒が食道癌、胃癌、結腸直腸癌の発症リスクに与える影響を検討すること。</p> <p>方法： 国民健康保険連合（国営）が隔年に実施する健康調査を 2009 年から 2012 年の間に受診した韓国の成人男女 23,323,730 人が対象。に前向きコホート研究として、アルコール摂取と食道癌、胃癌、結腸直腸癌発症のリスクの関係を調査した。フォローアップ期間（中央値 5.4 年）中に、食道癌は 9,171 人、胃癌は 135,382 人、結腸直腸癌は 154,970 人が確認された。コックス回帰モデルを用い、ハザード比と 95%信頼区間を推定した。</p> <p>結果： 年齢、性別、喫煙、運動、収入、体格指数、糖尿病で調整した結果、少量飲酒者は、中等量～多量の飲酒者と同様に非飲酒者と比較して食道癌、胃癌、結腸直腸癌の発症リスクが有意に高かった（ハザード比 1.51；95%信頼区間 1.43-1.60；ハザード比 1.08；95%信頼区間 1.06-1.09；ハザード比 1.12；95%信頼区間 1.11-1.14）。食道癌においてのみ、過剰なアルコール摂取と喫煙もしくは痩せが重なることで癌発症のリスクが相乗的に増加した。</p> <p>結論： 非飲酒者と比較した場合、少量飲酒（アルコール換算<10g/日）でさえ食道癌、胃癌、結腸直腸癌の発症リスク上昇と関係していた。</p>		